

## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

## ●新規受託項目 [2321] FLT3-ITD 変異解析

項目コード	2321
検査項目名	FLT3-ITD 変異解析
検体量/保存方法	EDTA-2K 加血液 3.0mL / 冷蔵 [容器番号：13] または 骨髓液 1.0mL / 冷蔵 [容器番号：22]
検査方法	PCR法
基準値	(設定せず)
所要日数	4~11日
検査実施料	未収載
備考	・受付曜日：月～金曜日（休祝日とその前日は不可） ・夜間集配分での受付は不可となります。 ・ご依頼に際しては、『遺伝子検査依頼書』をご利用下さい。

※本検査は、タカラバイオ株式会社の特許ライセンス（日本国特許第3607704号）を受けて実施しております。

FLT3（FMS-like tyrosine kinase 3）は主に幼若造血細胞表面に発現する受容体型チロシンキナーゼの一種で、血液細胞の分化・増殖および造血幹細胞の自己複製に重要な役割を果たしています。その遺伝子は染色体13q12に位置しますが、急性骨髄性白血病（AML）や骨髄異形成症候群（MDS）患者において特異的に変異が見出されており、遺伝子変異に伴うFLT3キナーゼの恒常的活性化が腫瘍化の進展に関与すると考えられています。

FLT3遺伝子変異はAMLの約30%、MDSでは病態の進展に伴い数%程度に認められます。その多くは、FLT3遺伝子の傍膜貫通（juxtamembrane：JM）領域の一部が重複して繰り返されるITD（internaltandem duplication）と呼ばれる変異です。とくに成人AMLにおいてFLT3-ITDは最も高頻度な変異であるとともに、独立した予後不良因子であることが明らかになり、『造血器・リンパ系腫瘍のWHO分類』や日本血液学会『造血器腫瘍診療ガイドライン』に注目すべき新たな疾患単位として記載されました。

このようにFLT3-ITD変異はAMLの病型分類上必須の検索対象となりつつあり、並行してFLT3を分子標的とした治療薬の研究開発も進められているところです。

また、FLT3-ITD変異が検出された症例の多くは他の既知の融合遺伝子変異を持たないことから、治療後の微小残存病変（MRD）モニタリングへの応用も期待されます。

## ●受託開始日：平成28年7月19日（火）